

S M公開講座 「躰と調教」

本講座では支配と服従における「躰と調教」をテーマにいたします。

本講座の前に必ずS M公開講座 「支配と服従」を受講し、さらに「支配と服従」をめざしたい方のために開講いたします。

なお、S Mプレイを中心とした直接的な行為について言及することはありませんのであらかじめご了解くださるようお願いいたします。

§ 1 スイッチとボリューム

§ 2 タバコの煙

§ 3 正 装

§ 4 気力と体力

§ 5 土 台

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§ 1 スイッチとボリューム

ご主人様が奴隷を飼う上で支配をどのように及ぼせるのかというのは大切な役目であるとともに重要な課題です。

その中のひとつに、ご主人様として奴隷のM性を解放するということがあると思います。

しかし、調教の時と同じように一日中フルにM性を解放させっぱなしではまともな日常生活には適応できませんよね。

この場合に大切なのは、いかにしてM性を解放し、いかに元に戻すかということになるでしょう。

どのようにして、という具体的な方法についてはいつかお話しする時が来るかもしれませんが、ここでは省略です ^^;

さて、このM性を解放したり元に戻したりということを、照明のスイッチを入れたり切ったりという意味で、「スイッチ」というように表現してみたいと思います。

二人で会っている間だったり調教の間だったりスイッチが入っている間というのはそれぞれだと思いますが、たとえばスイッチが切れている時は恋人どうしだったり仲のいい友達だったりというような主従関係の場合には、スイッチが入っている間にご主人様の支配の及んでいる時間だということができるでしょう。

「私はおペット様なのよー！」というような場合は、スイッチが切れている時はまるで主従が逆転しているかのようなことがあるのかもしれませんが（笑）

ここでひとつ注意しておかなければならないのは、M性のスイッチは「入り易く切れ難い」ということです。ご主人様が何もなくてもご主人様の顔を見ただけで声を聞いただけでもスイッチが入ってしまうように奴隷が自分でスイッチが入ってしまうくらい入り易いのですが上手にスイッチを切るといのはなかなか難しいことなのです。

もちろん奴隷が自分でスイッチを切るなんて、できることでも許されることでもないのですから、きちんとスイッチを切ってあげる、きちんとスイッチを切ってもらう、ということをしかりと意識するように心がけましょう。

さて、ご主人様と一緒にいないごく普通の日常生活をおくっている時にはご主人様の支配がまったく及ばない場合があります。

奴隷としての自分とそれ以外の自分というのをハッキリと区別しておかなければ、常に束縛されている状態には耐えられない方もいるからです。

しかし、これとはまったく対称的に奴隷を一日中支配の中に置くという場合ももちろんあります。

たとえご主人様と離れている間であっても奴隷という身分は変わりなく・・・
とはいっても、「支配と服従」でいう日常生活の中の支配というのは、スイッチを入れている間のような強いものではありません。

これを、適度に小さく心地よいBGMのようなレベルにボリュームを下げているときのよ
うな支配という意味で、「ボリューム」というように表現してみたいと思います。

ということで、ボリュームを上げたり下げたりという場合は強弱はあるものの完全に下げ
きってしまうという意味で、途切れることなく常にご主人様の支配が及んでいるとい
うことになるわけですから、調教の時以外は恋人同士というような主従関係には不向きだ
ということになります。

ボリュームを上げた時というのはもちろんスイッチを入れた時と同じ状態なわけですから
特に説明の必要はないでしょうが、このボリュームをBGMのレベルまで下げた状態とい
うのがどのようなものかということ、一言でいうとご主人様の存在が与える影響ということ
になります。

ふんわりとした暖かみのある安心した気持ちとでも言い換えてもいいかもしれません。

たとえば主従関係とは無縁なことで、何かを決めなければならないというような時にふとご主人様ならきっと「こうなさい」とおっしゃるだろうとか、何かこまったことがあった時にご主人様が側で見ているような気がして「ご主人様に恥ずかしくないようにしなくちゃ」というような影響です。

離れている時もいつも見守っていてくれるという実感が奴隷をいい方向に導いていくような影響を与えるわけですから、調教を日常生活に延長するのではなくご主人様の支配が日常生活にも緩やかに及ぶということなのです。

ただし、「スイッチ」とは違いどんなときでもご主人様と奴隷という意識から離れることができないわけですから、適度なレベルにボリュームを下げておくというのは、そうそう簡単なことではないことをご理解いただきたいと思います。

「スイッチ」と「ボリューム」、どちらにしてもそれぞれの主従関係によって違ってくるでしょうからどちらが優れているということではありませんが、どちらにしても初心者にもすぐにできるほど簡単なことではありません。

「支配と服従」では、奴隷を人間として女性として成長させるために躑け、そして調教していくのですから、スイッチとボリュームどちらにしても上手に使っていけるようにならなければなりませんね。

くれぐれも、スイッチの切り忘れにはご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§2 タバコの煙

今回は、一見どうでもいいように思えることでも「奴隷の躰け」ができる、ということをつタバコを題材にしてお話してみたいと思います。

最近ではタバコを吸わない人も多いですが、私はしょっちゅうもくもくと煙を出してます。

だからなんだ！ 健康に悪いぞ！ と言われてしまうと話が続かなくなるので、タバコの善し悪しはいちおう置いて、ご主人様がタバコを吸う方だということにしておいてください ^^;

さて、タバコを吸うというごくあたり前の行為をどのように「奴隷の躰け」に結びつけていくのかについて考えていきましょう。

【基本編】

ご主人様の立場から

ご主人様がタバコを手にしたら奴隷としては火をつけるのがあたり前だと思いますか？

「俺がタバコをくわえたら火をつけるのはあたり前だろう」 ごもっともです。

でも、何も言わなくても最初からそれが当然だと思っているM女性はあるまいと思わうんです。

火をつけさせるのもつけさせないのもご主人様の自由ですが、「タバコを手にしたらすぐに火をつけなさい」と命令するのを忘れないようにしなければなりませんね。

躰けの第一歩は基本的な命令からということです。

奴隷の立場から

ご主人様の「火をつけなさい」というご命令に従うためには、いつでもどこでもご主人様の動きに注意していて、タバコを手にしたらすぐに火をつけられるようにしていなければなりませんね。

つねにご主人様の動きに注意している、これが重要なポイントです。

ちゃんと見ていることができないようでは、ご主人様が何を求めているのかが判るようになるなんて夢のまた夢ですよ。

もちろんボ～っとしていてご主人様がタバコを手にしたことに気がつかなかったなんていうのは論外ですが、ご主人様のご命令なんですから「あ、忘れちゃった ごめんね えへへ (*^^*) 」では済まされません。

まあその時はお叱りを受けるかお仕置きが待っているかもしれませんが、それを期待してわざと気がつかないフリをするのは・・・ ご自由に(笑)

【中級編】

ご主人様の立場から

最初のうちはそれなりに気をつけてはいても、少し慣れてくるとタバコを手にしても反応がなかったりする時もあるでしょう。

さて、そんな時ご主人様としてはどうすればいいか考えてみてください。

といっても人それぞれですから、正解があるわけではありませんけど。

- 1 - 厳しく叱る
- 2 - 黙っておいて後でお仕置き
- 3 - 自分で火をつけてしまう
- 4 - 「タバコ！」といって火をつけさせる
- 5 - 眼を見つめて気づかせる

はぁ～ まだあるでしょうけど、とりあえずはこんなところで。

どうするかはご自由ですが、その時の気分次第で対応が違うというのは困りものです。

叱るべき時は叱る、誉めるべき時は誉めるというように、奴隷に命令したことへの対処には一貫性があるべきだと思うのですがいかがでしょうか。

奴隷の立場から

たとえ自分がタバコを吸わなくても、いつもライターを持ち歩くように心掛けたり、ご主人様とお会いしている間はライターをお預かりしておくというようなことを考えておくことも大切なことです。

もちろんご命令には忠実に従うのが基本ですが、その中で自分に何ができるか何をしてさしあげられるかを考えていくことによって一歩前に進むことができるのです。

「タバコに火をつけなさい」という単純な命令だけでもライターのこと以外にもいろいろなことが考えられるはずです。

灰皿が使いやすい位置にあるように気をつけたり両手で持つなりして、火をつけた後も気持ちよく吸っていただけるようにすることもできるでしょう。

ご主人様と一緒にお茶を飲んだりお食事をしたりする時に、何本も吸い殻が溜まった灰皿をお店の人が取り替えにくるまで待っていたりお店の人を呼んだりせずに、自分で席を立て取り替えてくることだってできるはずです。

ご主人様のタバコがなくなったらすぐにご買ってくるのもいいですね。

もっとも、なくなる前に用意しておくことだってできるでしょうけど（笑）

「ご主人様に何かをしてさしあげたい・・・」

ほらほら、大きな事ばかり考えていないで小さな事からコツコツとですよ（^^）

【上級編】

タバコに火をつけるという単純な行動であるだけに、慣れてしまえばごくあたり前のことになってしまい達成感など希薄なものになってしまうでしょう。

しかし、火をつけるということにもっと深い意味を持たせることができるのです。

「奴隷だから火をつけるのはあたり前」ではなく「奴隷だからこそ火をつけることができる」という発想の転換を試みましょう。

自分の奴隷だからこそ火をつけさせるのであって、他の人には火をつけさせないということになれば、奴隷にとっては命令に従う行為から奴隷に与えられた特権に一変してしまうのです。

奴隷にとっては、タバコに火をつけさせてもらえるのはご主人様の奴隷にさせていただいたからこそできることであって、火をつけることはあたり前のことどころではなく「服従の悦び」として感じることもできるのです。

もし火をつけるときに周りに誰かがいたとしても、それを不思議に思う人はまずいないでしょう。

でも、ご主人様だけは判っているのです、それが奴隷に与えた特権であるということ。

そして、奴隷だけは判っているのです、それがご主人様にいただいた悦びであることを。

【おまけ】

ご主人様が上級編を実行するとなるとそれなりの覚悟が必要になるかもしれません。

接待を受ける席や飲み屋のおねえちゃんからの「火をおつけしましょう攻撃」まで迎撃しなければならぬからです（笑）

そういう時は別にしたっていいじゃないかと思うかもしれませんが、まあそこらへんはご主人様としての自覚にお任せするという事にしましょうか。

くれぐれも、タバコの吸いすぎにはご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§3 正装

さて、今回のテーマは正装です。

もちろんご主人様の正装・・・ではなくて、奴隷の正装についてです。

奴隷としての正装なのでご主人様の前でお見せする身だしなみということになるわけですが、奴隷がご主人様にお会いする時にどんな服装や下着を身につけるか、これは大いに悩むところではないでしょうか。

あれを着なさいこれを履きなさいというご主人様の命令があれば別ですが、自分で選ぶとなるとこれまた悩めばきりがありません。

もちろん自分の好みというものはあるでしょうが、そこは奴隷たるものご主人様の好みに合わせたいと思うのが当然。（・・・ですよね ^^; ）

「おまえにはこういうのが似合いそうだな」

そうっていただいたのはいいものの、さてさて、いままでの自分のレパートリーの中には無かったものだったり、自分で着ようとは思ったこともなかったような形や色だったり・・・

かなり勇気はいると思いますが、そうしてご主人様の色に染められていくのもまた喜びになっていくのではないのでしょうか。

奴隷の好みを把握して、奴隷の個性とご主人様の好みをミックスさせて、きつこういう物が似合うはず、そんな風に考えてくださるご主人様だと信じていきましょう（^^）

新しい服を選びながら、さてどちらにしようかなんて迷っているときに、ご主人様の顔が浮かんでくるようになれば取りあえず合格ということにしておきましょうか（笑）

ご主人様の好み、ちゃんと聞いてありますか？

でも、あなたがどんなものを身にまとっていようとあなたはご主人様の奴隷。

ご主人様に支配していただいているのはその中身なんです。

では、奴隷の正装というのは何も身につけない全裸の姿のことでしょうか。

ところが困ったことにM女性というのは着ている物をすべて脱ぎ捨てても、さらに身にまとっているものがあるんですね。

プライドとか、わがままさだとか、その他諸々を着込んでいるうちはすべてを脱ぎ捨ててはいないわけです。

ご主人様の前だけでは必要のないそれらの物をすべて脱ぎ捨ててこそ、あなた自身、本当の奴隷としての姿をご主人様の前にお見せすることになるのではないですか？

ほんの少しでも余計なものを身にまとわない姿、ほんとうのあなた自身、それこそが奴隷の正装だと、私は思います。

とはいうものの、そう簡単にできるものではないですよね ^^;

着ている物をすべて脱いでもまだ取り去れないもの、それを脱ぎ捨てるために、首輪をしていただいたり、縛っていただいたり・・・

そういう気持ちで調教をお受けすることも大事なことになるのではないのでしょうか。

ご主人様の前にいかに本当の自分をさらけ出せるか、もちろん一朝一夕にしてできることではありません。

しかし、そうなれるように努力していくことも奴隷の勤めであることに間違いはありません。

と、まあ ここまでは脱ぎ捨ててしまえば何とかなることなんですが・・・ ^^;

さらに奴隷の正装に磨きをかけてみましょう。

すべてを脱ぎ捨てた後に 『 ご主人様への想い 』 を身にまとうなんていうのはいかがでしょうか (^ ^)

こればかりはご主人様に教えていただくわけにはいきませんが。

奴隷の正装、それはご主人様にだけお見せする最高の装いです。

くれぐれも、厚着にならないようにご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§4 気力と体力

奴隷が女として人間として日常生活を送る上で、何よりも大切なことは奴隷としてご主人様に恥ずかしくない生活を送らなければならないということはずでにお話ししたとおりです。

そして、これはそのままご主人様にも当てはまることなのです。

奴隷にとってご主人様はいつでもどんな時でもご主人様であるわけで、ご主人様以外の存在では有り得ないと私は考えています。

ご主人様はいつでも尊敬し信頼できる方でなければなりません。

それはもちろん当然です。

ご主人様としての自分という存在がほんとうに奴隷に必要なのだろうか、飼ってあげることによって奴隷に「心の安定」を与えてあげることができるだろうか、奴隷として女として人間としてより良い姿に導くことができるだろうか、それらすべてにYesと言えなければならぬのがご主人様のはずです。

でも、弱いところ情けないところ惨めなところ、そんなところが無い人間なんているわけがありません。

しかし、自分は奴隷を飼うご主人様であるという方ならあえてそれを見せたがる人はいないでしょう。

まして、ご主人様という存在であれば見せてはならないことなのかもしれません。

奴隷の前だけに限らず、日常生活においても「支配」する者としての生き方をしなければならぬはずです。

たとえそれが主従関係とは無縁な出来事であったとしても。

でも・・・

かなり厳しいことをいって見ましたが、だからといって、ずっと気を張り続けていかなければいけないのかというと、それもまた違うと思うのです。

「自分は変態のSだぁ～ だからSMプレイがしたいんだぁ～」というだけの方なら別ですが、ご主人様としてしっかりと奴隷を育てていきたいと思っている方なら奴隷を飼うということ、そしてご主人様でいることそのものすべてに悦びを感じられると思うのです。

そして、ごく自然に意識することなくご主人様としての態度に現れるようになることができればいいのではないのでしょうか。

ご主人様といえども神様ではないわけですから試行錯誤もあれば失敗もあるはずです。

これから良いご主人様になっていこうという成長過程の方だっていますよね。

私がいいたいのは、何もかもパーフェクトな人でなければご主人様にはなれないぞ、ということではないのです。

「ご主人様になる」のは簡単でも、「ご主人様でいる」ことは容易なことではありません。

奴隷はご主人様がコントロールしてくれますが、ご主人様をコントロールしてくれる人はいないのです。

時に感情や肉体の高ぶりが抑えられない時もあれば、何かで落ち込んでいたり腹を立てていたりする時だってあります。

人間ですから風邪をひいている時もあれば、疲れはてている時だってあります。

そんな時はご主人様の威厳が保てませんか？

いいじゃないですか。

ご主人様はSとしての自分に正直になればいいんです。

Sであること、そしてご主人様として奴隷を飼うこと、それは自分が自分らしく生きるために不可欠なことなのです。

「ご主人様でいる」ことに無理を感じたり違和感を覚えたりするようでは、自分らしくそして自分に正直にいることにはならないはずですよ。

奴隷がご主人様に飼われることに悦びを感じるようにご主人様でいることに悦びを感じられること、それがごく自然に感じられるようになることを目指していきましょう (^ ^)

何でもかんでも無差別に奴隷へ発散させるなんていうのは論外ですが、自分自身をコントロールできるご主人様ならどんな時だってご主人様なんです。

だから、ナサケナ～イところを見せることだってそりゃあるんですけどば。 もごもご・・・

気力と体力が充実している時だけがご主人様ではありません。

くれぐれも、無理をしないようご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§5 土 台

奴隷にとってご主人様に「依存する」というのはどういうことだと思いますか。

依存する、というからにはご主人様に頼るということですよ。

主従関係なので何かの形で依存していることは間違いないので、奴隷がご主人様を頼りにするのは当たり前のことだと思います。

対等な立場ではない主従関係であるからこそ、奴隷は依存することを許され、そしてご主人様はそれを受け入れることになるわけです。

もちろん信頼し尊敬できる存在だからこそ頼りにできるわけですが、ご主人様と奴隷の思っている「依存」という意味がくい違っていたのでは困りますよね。

そこで奴隷の方はご自分のことを考えてみてください。
どのようにご主人様に依存しているのかを。

そしてご主人様の方も考えてみてください。
奴隷がどのように自分に依存しているのか、またどんな依存をさせようとしているのかを。

頼るというのはご主人様の存在があるからこそできることではありますが、だからといって何もかも頼り切ってべったりと甘えることでは決してありません。

ご主人様がいなければひとりで立ってられないような、そんな情けない奴隷にはなっていただきたくありませんし、そんな育て方をしていただきたくないと思うのです。

しっかりと自分で立ってられないからご主人様に支えていただいています
というのでは奴隷にとってご主人様はたんなる添え木としての存在でしかないのです。

誤解しないでいただきたいのですが、「ひとりで立っていられるようになる」ということは「私はひとりっきりでも大丈夫！」ということではありません。

女として奴隷として、何かの形で自分の存在価値を見だしていくということなのです。

なにも大袈裟なことをいっているではありません。

たとえば日常でもなかなか自信が持てなかつたり勇気のでないことにチャレンジする時にご主人様の奴隷として恥ずかしくないようにという気持ちで頑張れる自分を見だすこと。

そしてそれをご主人様が見守っていてくれること。

それだけでもじゅうぶんにシアワセじゃないですか (*^^*)

ご主人様がいなくても生きていけるのではなく、ご主人様がいなければ何もできないのもなく、ご主人様がいるからこそ自分が自分らしく生きていくことができるということなのです。

M女性のご主人様に奴隷としてお仕えすることを自分の意志で決められたのですから、何も自分で決められないおこちゃまなわけではありませんよね。

だからとりあえずは自分で立っていられる一本の「樹」だと思ってみてください。

中にはご主人様と出会う前にできた枝や葉っぱに誇りを持っている方もいらっしゃるかもしれませんが、グラグラしてなんとなく頼りなくて誰かに支えて欲しかったのではありませんか？

なぜかといえば、樹の大きさにみあうだけのしっかりとした根を張っていなかったからなのです。

だからといってご主人様の存在というのは、不安定な樹がぐらつかないように支えている添え木ではないのです。

いつも添え木に寄りかかったままでいてはダメなんですよ。

ご主人様の存在というのは、たとえ嵐が来てもしっかりと立ってられるように根を張るための大地という「土台」なのです。

ご主人様という土台の上に根を張ってしっかりと育っていくことが奴隷の役目だとすれば、奴隷という樹が大きく育ち葉を茂らせ美しい花を咲かせるためにしっかりとした土台になることがご主人様の役目であるわけです。

ご主人様もたんなる添え木にならないようにしっかりとした土台でいるための努力を怠りなく続けていかなければなりません。

そして・・・

信頼できる大きな土台の上で育っていけることに最大限の感謝をして、それに恥ずかしくない人間に成長していこうと努力することが「服従」であるということになるのです。

いままで自分だけで構成していたあなた自身という存在が、ご主人様というしっかりした土台の上でいろいろな意味で安心して暮らせるようになっていくのが「支配と服従」の姿なのだと思います。

くれぐれも、砂の上に根を張らないようにご注意ください！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp